

水道事業の業務状況

■問合せ 企業局総務課 (☎41-2840)

令和元年度上半期 (4月1日～9月30日)

●経理の状況

給水人口や大口使用者の使用量の減少、節水型家電製品の普及や節水意識の浸透等により、水需要は減少傾向にあるため、経費削減等の取り組みを積極的に行っています。

安心で安全な水道水を届けることができるよう、古くなった水道管の布設替えや水道施設の更新工事などを効率的に行っています。

施設を整備するための収入

区分	金額
補助金・負担金・出資金	1,712万円
その他	9万円
計	1,721万円

施設を整備するための支出

区分	金額
建設改良費	9,727万円
企業債償還金	2億8,184万円
計	3億7,911万円

不足する額3億6,190万円は、減価償却等に伴い発生した資金を充当して収入を補う見込みです。

水道水を届けるための収入

区分	金額
水道料金収入	11億8,557万円
長期前受金戻入	7,660万円
その他	393万円
計	12億6,610万円

水道水を届けるための支出

区分	金額
人件費	1億1,385万円
維持管理費	3億9,545万円
減価償却費等	3億5,379万円
支払利息	6,862万円
その他	218万円
計	9億3,389万円

元年度上半期の純利益は、収入と支出の差額3億3,221万円になる見込みです。

元年度業務量の見込み

給水戸数
54,869戸
年間総給水量
10,455,725m³
1日平均給水量
28,568m³

平成30年度決算

●決算の状況

29年度に比べ、給水収益を含む収入は6,774万円(2.5%)の減、支出は9,450万円(4.1%)の減で、収支差額は4億4,160万円となり、10年連続で黒字決算となりました。

※地方公共団体財政健全化法による資金不足額は発生していません。

施設を整備するための収入

区分	金額
企業債	1億9,790万円
補助金・負担金・出資金	1億4,748万円
その他	22万円
計	3億4,560万円

施設を整備するための支出

区分	金額
建設改良費	5億1,494万円
企業債償還金	5億6,939万円
計	10億8,433万円

不足する額7億3,873万円は、減価償却等に伴い発生した資金を充当して収入を補いました。

水道水を届けるための収入

区分	金額
水道料金収入	23億6,500万円
長期前受金戻入	1億5,986万円
その他	1億5,452万円
計	26億7,938万円

水道水を届けるための支出

区分	金額
人件費	3億 365万円
維持管理費	10億7,239万円
減価償却費等	7億1,386万円
支払利息	1億4,505万円
その他	283万円
計	22億3,778万円

30年度の純利益は、収入と支出の差額4億4,160万円となりました。

●30年度に実施した主な工事

- ・小浜町地内外配水管布設工事
- ・甘木配水池緊急遮断弁設置工事

30年度業務量

給水戸数
54,814戸
年間総給水量
10,552,755m³
1日平均給水量
28,912m³

水道は、私たちの毎日の生活を支える重要なライフラインです。今後も、水道事業の経営基盤の強化と長期的な安定を目指し、内部努力を行いながら、なお一層の経営の効率化と健全化に努めます。

公共下水道事業の業務状況

■問合せ 企業局総務課 (☎41-2840)

令和元年度上半期 (4月1日～9月30日)

●経理の状況

下水道普及率は、65.3%となりましたが、全国平均79.3%や福岡県平均82.1%に比べ低い状況です。

多くの人が下水道を利用できるよう、年間2ポイント程度の普及率の向上を目指し整備を進めています。

施設を整備するための収入

区分	金額
補助金・負担金・出資金	1億1,320万円
計	1億1,320万円

施設を整備するための支出

区分	金額
建設改良費	1億9,402万円
企業償還金	6億7,045万円
計	8億6,447万円

不足する額7億5,127万円は、減価償却等に伴い発生した資金を充当して収入を補う見込みです。

下水を処理するための収入

区分	金額
下水道使用料	6億3,996万円
長期前受金戻入	4億3,991万円
その他	60万円
計	10億8,047万円

下水を処理するための支出

区分	金額
人件費	8,756万円
維持管理費	3億4,089万円
減価償却費等	8億6,420万円
支払利息	1億7,701万円
その他	13万円
計	14億6,979万円

元年度上半期の純利益は、収入と支出の差額3億8,932万円になる見込みです。

●元年度上半期に実施中の主な工事

- ・三池汚水第五幹線築造工事
- ・吉野汚水枝線管渠築造 (第9工区) 工事
- ・明治ポンプ場電気設備改築工事

元年度業務量の見込み

水洗化戸数
30,119戸
年間総処理水量
8,703,274m³
1日平均処理水量
23,780m³

平成30年度決算

●決算の状況

29年度に比べ、下水道使用料収入は、下水道普及率の向上、水洗化の促進により2,537万円 (2.1%) 増、経費削減や効率的な維持管理により、収益的収支は9年連続で黒字決算となりました。

※地方公共団体財政健全化法による資金不足額は発生していません。

施設を整備するための収入

区分	金額
企業債	12億5,670万円
補助金・負担金・出資金	13億4,546万円
計	26億 216万円

施設を整備するための支出

区分	金額
建設改良費	24億9,444万円
企業償還金	13億1,507万円
計	38億 951万円

不足する額12億735万円は、減価償却等に伴い発生した資金を充当して収入を補いました。

下水を処理するための収入

区分	金額
下水道使用料	12億4,841万円
補助金・負担金	15億4,719万円
長期前受金戻入	8億6,199万円
その他	114万円
計	36億5,873万円

下水を処理するための支出

区分	金額
人件費	2億7,739万円
維持管理費	7億9,878万円
減価償却費等	17億1,981万円
支払利息	3億7,068万円
その他	2,747万円
計	31億9,413万円

30年度の純利益は、収入と支出の差額4億6,460万円となりました。

●30年度に実施した主な工事

- ・吉野汚水第二幹線築造 (第1工区) 工事
- ・三池汚水第八幹線築造 (第2工区) 工事

30年度業務量

水洗化戸数
29,303戸
年間総処理水量
8,246,698m³
1日平均処理水量
22,594m³



下水道は、私たちが快適で衛生的な生活を送れるよう、川や海などの自然環境をきれいに保つとともに浸水などからまちを守るための重要な施設です。今後も、経営の効率化を図り、安定的な事業運営に努めます。